

研究構想図

《学校教育目標》

◎よく考える子 ○力を合わせる子 ○たくましい子

《めざす子供の姿》

失敗してもめげずにチャレンジして、心も体もたくましい子

《研究主題》

運動の楽しさを味わい、生き生きと運動に親しむ子を育てる体育・健康教育の充実

友達 家庭 地域 環境 教材 外部講師

ゲーム性

UD

(ユニバーサル・デザイン)

授業研究部会

体育の授業改善

- UD を意識してルールや場、教材を工夫し、どの子も運動の特性を味わいながら「できた！」という達成感を感じられるようにする。
- どの運動領域でも運動を訓練的に行うのではなく、ゲーム性を取り入れた運動になるように授業を工夫し、仲間と協働的に体力が身に付くようにする。
- PC を活用して、授業での効果的な活用を検討する。

体育的行事委員会

楽しい運動機会の創出

- 年間 12 回、中休みに「六スボタイム」を企画し、様々な運動遊びにクラスごとにチャレンジする場を用意し、運動遊びを楽しむ機会を増やす。
- 児童の体育委員会を中心として、大縄タイム等の運動集会を企画運営し、定期的に運動に親しもうとする機会を意図的に設ける。
- 運動の楽しさを味わえるような教材教具の整備・開発を行う。

食育・健康部会

児童の生活習慣の見直し

- 栄養教諭や養護教諭による食育及び保健指導、給食センター栄養士による出前授業等を通して、生活習慣や食への知識を深める。
- 児童の保健給食委員会において、健康・食に関する取組を行い、児童や保護者に発信する。
- 学級活動、保健、家庭科、総合的な学習の時間等の中で、児童が食生活、健康を見直す機会を設ける。

《研究仮説》

児童が体を動かすことが「楽しい」「好きだ」と感じられるような体育の授業改善、様々な運動遊びに友達と一緒に取り組む体育的活動の時間の設定、自己の食習慣を見直すための学習や取組の 3 つの柱を中心とした教育活動を進めていくことで、生き生きと運動し、自分の体を大切にすることが増えるのではないだろうか。

《課題》

- 失敗を恐れるあまりチャレンジしようとする意欲が弱い。「まずは、やってみよう！」という意欲をもたせたい。
- 運動することへの苦手意識があり、体を動かすことが嫌いな児童も少なくない。運動することへの抵抗感をなくしたい。
- 児童、保護者の健康に対する意識が全体的に低く、中には生活習慣も乱れている子もいる。健康な体づくり、心身共に生き生きと生活する子を育てたい。